

三重県立美術館

PRESS RELEASE 2025.3

コレクションによる特別展示

Special Exhibition of Works from the Collection

ルックバック：近代 洋画

LOOK BACK: Japanese Modern Painting



①藤島武二《大王岬に打ち寄せる怒濤》 1932年

2025年4月26日（土）－7月6日（日）

三重県立美術館

Mie Prefectural Art Museum

■ 展覧会について

日本が急速に近代化を推し進めた19世紀後半、西洋からはさまざまな技術や思想がもたらされました。その波は美術の分野にも到来します。幕末から明治初期には、西洋風の絵画を志す画家たちが次々と出て、日本でも本格的に油絵をはじめとする西洋式の絵画の学習が進みます。明治期には、美術を専門的に学ぶための学校や画塾が創設され、また海外へ出て絵画を学ぶ者もあらわれ、西洋画は新来の絵画として発展していきます。

彼らが描いた絵は、もともと日本にあった伝統的な画法を用いた「日本画」と対になるようにして、やがて「洋画」とよばれるようになります。画家たちは近代という大きなうねりの中、西洋から多くを学びつつ、試行錯誤を重ねながら、日本独自の洋画を生み出してきました。

三重県立美術館では、洋画をコレクションの収集方針のひとつに掲げて収集と調査研究活動を行い、洋画や洋画家に焦点をあてた展覧会を数多く開催してきました。本展覧会では、当館のコレクションの中でも重要な位置を占める洋画を軸に、明治から昭和前期までを振り返り、近代美術の魅力に迫ります。

■ 展覧会タイトル表記について

※「近代」と「洋画」のあいだは半角スペースです。

▼正式名称

コレクションによる特別展示
ルックバック：近代 洋画

▼字数制限がある場合

ルックバック：近代 洋画

■ 広報文

案内文作成などにご利用ください。

▼100文字以内（87文字）

幕末から明治にかけて西洋より伝わった技法や思想を取り入れ、独自の展開を遂げた日本の油彩画＝「洋画」。近代日本と洋画家たちの80年間の奮闘を館所蔵の作品約100点により振り返ります。

▼50文字以内（50文字）

ひたすら描いた。がむしゃらに向き合った。近代日本と洋画家たちの奮闘を約100点の作品により振り返ります。



②川村清雄《梅と桶の静物》制作年不詳

■各章のみどころ

本展は5章で構成します。

▼見どころ① ひらけ近代、めざめよ洋画！

幕末から明治にかけて急速に西洋式の絵画の学習が進み、日本独自の「洋画」が芽生え始めます。最初の章では、西洋に学んだ写実的な絵画や、日本の伝統的な絵画とのあいだで揺らぐ作品、また当時の社会の様子を伝える作品を紹介します。

▼見どころ② 洋画を学ぶ、だれかとどこかで

明治期には、官立の美術学校や官営の展覧会が設立され、国が主導するかたちで美術の制度が整えられていきます。洋画を志す美術家たちの多くはこうした美術学校で学び、官設の展覧会に出品することで画家としての活動を展開しました。また、絵画習得を目的に渡欧する美術家たちも次第に増えていきます。

▼見どころ③ 個性きらめく、 明治末から大正期の洋画

明治後期から大正期には、大衆が政治や社会のあり方を変えようとする、いわゆる大正デモクラシーが起きました。個性や自由を賛美し、新たな時代を拓こうとする動きは美術界にも広がりを見せ、若い美術家たちは個々の表現を追求し、個性的な作品を創り上げました。

▼見どころ④ ふらんすへ行きたし！ パリに学んだ洋画家たち

第一次世界大戦の終結後、1920年代から30年代にかけて、多くの日本人美術家たちがパリへと向かいます。大量の作品と実際に向き合い、彼らは西洋絵画の伝統を目の当たりにし、打ちのめされ、乗り越えようと努めます。その過程で、日本独自の洋画とは何かと追求する動きが広がりました。



③佐伯祐三 《サンタンヌ教会》
1928年

▼見どころ⑤ 洋画の成熟、戦争と美術界

昭和前期には、明治期に洋画を学び始めた画家たちが壮年期を迎え、洋画界の巨匠と称されるようになりました。また、ヨーロッパからもたらされた前衛的な美術運動が若い世代を中心に熱狂的に迎え入れられます。しかし、時代はアジア太平洋戦争へと突入し、美術家たちにとっても苦しい時期が続きました。幕末・明治初期の西洋美術の到来から約80年、美術家たちが近代という時代をいかに向き合ったかを振り返ります。

■ 展覧会概要

会期 2025年4月26日（土）から7月6日（日）まで
会場 三重県立美術館 企画展示室

開館時間 午前9時30分から午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 毎週月曜日（ただし5月5日は開館）、5月7日（水）

主催 三重県立美術館
助成 公益財団法人三重県立美術館協力会

観覧料 一般700（500）円 学生600（400）円 高校生以下無料
（ ）内は20名以上の団体割引料金

- ・この料金で、2階常設展示室「美術館のコレクション」、柳原義達記念館もご覧いただけます。
- ・生徒、学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。
- ・障害者手帳等（アプリ含む）をお持ちの方および付き添いの方1名は観覧無料。
- ・教育活動の一環として県内学校（幼・小・中・高・特支）および相当施設が来館する場合、引率者も観覧無料（要申請）。
- ・毎月第3日曜の「家庭の日」（5月18日、6月15日）は団体割引料金でご覧いただけます。

■ 広報用画像について

本プレスリリース掲載の①から④の画像を広報用に提供します。
ご希望の方は下記注意事項をお読みの上、ご連絡ください。ご希望の画像データをお送りします。

- ・作品画像のご使用は、本展の広報目的の場合に限ります。本展覧会終了後は使用できません。
- ・作品画像への文字のせ、画像トリミングはご遠慮ください。
- ・掲載にあたっては、作家名、作品名、制作年を画像と一緒に記載してください。
- ・ウェブサイトに掲載する場合は、コピーガード（右クリック不可）をかけてください。コピーガード対応ができない場合には、72dpi以下もしくは400×400pixelの解像度で掲載してください。
- ・画像データの広報目的以外の使用はできません。



④松本竣介《建物》 1947年頃

■ お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課 原（企画）、坂本、村上（広報）
TEL 059-227-2100（代表） FAX 059-223-0570
E-mail bijutsu2@pref.mie.lg.jp
〒514-0007 三重県津市大谷町11
<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>